



営農NEWS



麦類赤かび病の防除は適期に必ず実施しましょう

1 赤かび病の発病条件と薬剤による防除適期

赤かび病は、出穂期以降に気温が高く、降雨が続くと発病してきます。麦類の開花期から10日間くらいが最も感染しやすい時期で、小麦では開花始期～開花期（出穂期7～10日後頃）、六条大麦では開花を確認した時期（出穂期3日後頃）、二条大麦では穂から葎が出ているのを確認した時期（出穂期12～14日後頃）が1回目薬剤防除の適期です。

2 各種麦の出穂期（予測）と防除時期（予測）

農業研究所発表の「農研速報」によりますと、麦類の出穂期は平年並～やや早く、六条大麦で3月下～4月中旬頃、小麦で4月中～下旬頃と予測されています。なお、播種時期や地域、圃場により生育のばらつきが大きく、また、今後の気温により更に早まることもあるため、下記を参考に、現地圃場では、麦の生育をよく観察し、防除時期の（目安）として利用し、計画的に薬剤防除を実施してください。

表1 農業研究所（水戸市、龍ヶ崎市）における麦類の予測出穂期と赤かび病の防除適期

麦種	品 種	調査地点	播種期	予測出穂期	予想防除適期
六条大麦	カシマゴール	水戸市	11月5日	4月11日	4月14日
		龍ヶ崎市	11月10日	3月30日	4月2日
	カシマムギ	水戸市	11月5日	4月14日	4月17日
		龍ヶ崎市	11月10日	4月1日	4月4日
小麦	さとのそら	水戸市	11月5日	4月21日	4月28日～5月1日
			11月20日	—	—
		龍ヶ崎市	11月10日	4月12日	4月19日～22日
			11月20日	4月13日	4月20日～23日

注)「農研速報」の、水戸市が3月5日、龍ヶ崎市が3月10日現在の予測出穂期（今後やや高温で推移する条件）より、予想防除適期を算出しています。

麦赤かび病に有効な主な防除薬剤を表2に記載しました。各薬剤は、麦種（小麦、二条・六条大麦の別）や散布方法（無人ヘリコプター、少量散布装置、動力噴霧器など）により希釈倍数や収穫前日数、使用回数などが異なる場合があります。なお、防除適期に1回目の薬剤防除を実施した場合でも、その後の気象条件が発病に好適な環境が続く場合には、薬剤散布後7～10日目に2回目の追加防除を行ってください。

表2 小麦または六条・二条大麦 赤かび病の主な防除薬剤 (令和3年3月22日現在)

麦種 薬剤名	小 麦		六条・二条大麦		分類
	希釈倍数	使用時期 — 使用回数	希釈倍数	使用時期 — 使用回数	
トップジンM 水和剤	1,000～1,500倍 (少量散布) 250倍	収穫14日前—3回以内 (出穂期以降は2回以内)	1,000～1,500倍	収穫30日前—3回以内 (出穂期以降は1回)	1
トップジンM ゾル	1,000～1,500倍 (無人航空機) 8倍	収穫14日前—3回以内 (出穂期以降は2回以内)	1,500倍 (無人航空機) 8倍	収穫14日前—3回以内 (出穂期以降は1回) 収穫21日前—3回以内 (出穂期以降は1回)	
ストロビー フロアブル	2,000～3,000倍 (少量散布) 500倍	収穫14日前—3回以内	2,000～3,000倍	収穫14日前—3回以内	11
チルト乳剤 25	1,000～2,000倍 (無人航空機) 8倍	収穫3日前—3回以内 収穫7日前—3回以内	1,000～2,000倍 (無人航空機) 8倍	収穫21日前—1回	3
シルバキュア フロアブル	2,000倍 (少量散布) 500倍 (無人航空機) 16倍	収穫7日前—2回以内	2,000倍 (無人航空機) 16倍	収穫14日前—2回以内	3
ワークアップ フロアブル	2,000～3,000倍 (少量散布) 500倍 (無人航空機) 10～24倍	収穫7日前—3回以内	2,000～3,000倍 (少量散布) 500倍 (無人航空機) 10～24倍	収穫7日前—3回以内	3

注1) (少量散布) は、専用の少量散布用ノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を使用して、250l/10aで散布します。また、(無人航空機) は、無人ヘリコプターまたはドローンを用いた散布に限定されます。

注2) 分類欄には、FRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。

